

2019年4月24日

第32回「京都美術文化賞」 受賞者の決定と贈呈式開催について

このたび、公益財団法人 中信美術奨励基金（理事長 白波瀬 誠）では、財団の顕彰事業である第32回「京都美術文化賞」の受賞者を決定しましたのでお知らせいたします。

記

1. 第32回「京都美術文化賞」受賞者・受賞理由

名和 晃平（なわ こうへい・44歳）彫刻

様々な素材とテクノロジーを駆使し、彫刻の新たな可能性を広げている。昨年のループル美術館での個展など、海外での活躍もめざましい。

八幡 はるみ（やはた はるみ・62歳）染

多様なメディアを使用して生み出される作品は非常に美しく、幅広い活動を行っている点を高く評価。

柏原 えつとむ（かしはら えつとむ・77歳）現代美術

現代アートの第一人者であり、独自の世界観をもって創作活動を続けている。

2. 贈呈式日時 2019年5月28日（火）午後2時

3. 会場 ウェスティン都ホテル京都 葵殿 京都市東山区三条けあげ TEL 075（771）7111

4. 京都美術文化賞について

美術の創作活動を通じて京都府市民の精神文化向上に多大の功績があった方に、「京都美術文化賞」として賞牌と賞金1人金200万円を贈呈し、創作活動を奨励しています。1988年5月の第1回に始まり、今回で第32回目の贈呈となりました。

（1）選考委員（敬称略）

太田 垣 實（美術評論家）

潮江 宏 三（美術評論家）

新宮 晋（彫刻家）

辻 惟 雄（美術史家）

樂 吉左衛門（陶芸家）

(2) 受賞記念展の開催

2020年1月開催予定

於:京都文化博物館

(3) 過去の受賞者(別紙一覧参照)

・受賞者総数 96名(今回を含む)

絵画 35名(日本画18名 洋画11名 版画6名)

彫刻 13名

工芸 35名(染織13名 陶芸16名 漆芸3名 截金1名 人形1名
ガラス造形1名)

その他 13名(写真3名 ファイバーアート4名 マルチメディアアート1名
現代美術4名 花人1名)

・受賞後の活躍

第1回受賞の秋野 不矩氏は1999年度文化勲章受章

第7回受賞の黒崎 彰氏は2008年瑞宝中綬章受章

第9回受賞の岩倉 寿氏は2006年芸術院会員に選出

第9回受賞の木村 光佑氏は2012年瑞宝中綬章受章

第13回受賞の江里 佐代子氏は2002年史上最年少で人間国宝に認定

第19回受賞の宮瀬 富之氏は2009年日本芸術院賞を受賞

第24回受賞の森村 泰昌氏は2011年紫綬褒章受章

など、受賞後の活躍はめざましいものがある。

(4) 「京都美術文化賞」の意義

伝統ある京都の芸術を発展させ、京都からすばらしい芸術家を誕生させる刺激になっています。美術関係者からは、この賞の足跡について「京都の優れた芸術が集まり、京都の美術界の流れをあらわしていて意義深い」と評価いただいています。

5. 公益財団法人 中信美術奨励基金について

京都中央信用金庫の預金量一兆円達成(1986年11月)を記念して、1987年4月1日に設立しました。京都府下における美術の創作活動を奨励し、伝統的文化の継承発展並びに京都府市民の精神文化向上に寄与することを目的としています。2011年4月1日より公益財団法人に移行しました。

以上

☆本件に関するお問い合わせは、京都中央信用金庫 On Your Side 事業部
(TEL075-223-8385 FAX075-223-2563) までお願い申し上げます。

第32回京都美術文化賞受賞者略歴（敬称略）

名和 晃平（なわ こうへい） 彫刻 44歳

1975年生まれ。京都を拠点に活動。'03年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。'09年、京都に創作のためのプラットフォーム「SANDWICH」を立ち上げる。独自の「PixCell」という概念を軸に、様々な素材とテクノロジーを駆使し、彫刻の新たな可能性を拓いている。近年は建築や舞台のプロジェクトにも取り組み、空間とアートを同時に生み出している。京都造形芸術大学教授、「SANDWICH」主宰。

展覧会：'11年個展「名和晃平—シンセシス」（東京都現代美術館）、'13年個展「名和晃平—SCULPTURE GARDEN」（霧島アートの森／鹿児島）、「あいちトリエンナーレ2013」（愛知）、'15年個展「FORCE」（Pace Gallery London／イギリス）、'17年個展「ESPUMA | Kohei Nawa」（ジャパン・ハウス サンパウロ／ブラジル）、「リボンアート・フェスティバル 2017」（宮城）、'18年個展「Throne」（Louvre Museum／フランス）、個展「Element-Black」（ギャラリーノマル／大阪）、個展「Biomatrix」（スカイザバスハウス／東京）、'19年個展「VESSEL」（ARARIO GALLERY SEOUL | RYSE HOTEL／韓国）、個展「Foam」（金沢21世紀美術館／石川）など多数。

受賞：'10年第14回アジアン・アート・ビエンナーレ・バンガラデシュ2010 最優秀賞、'11年京都市芸術新人賞、'17年京都府文化賞功労賞、'18年Pen クリエイター・アワード 2018など。

代表作：「PixCell-Deer#24」（'11年）、「Foam」（'17年）、「Throne」（'18年）など。

八幡 はるみ（やはた はるみ） 染 62歳

1956年大阪市生まれ。'82年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。「染め」を広義にとらえ直し、芸術表現とプロダクト、手仕事とデジタルを往還する制作を展開している。京都造形芸術大学教授。

展覧会：'01年「現代の布—染と織の造形思考展」（東京国立近代美術館工芸館）、'02年「現代の工芸—素材と造形思考」（ペトロナスギャラリー／マレーシア）、'03年「前進する工芸展」（田辺市立美術館／和歌山）、'07年「<素材×技術>からフォルムへ」（茨城県つくば美術館）、'08年「『装飾』所蔵作品展」（東京国立近代美術館工芸館）、「Gardens」（高島屋日本橋店画廊X）、'10年「近代染色の展開と現在」（茨城県つくば美術館）、'13年「Contemporary KOGEI Styles in Japan」（森上博物館／アメリカ）、個展「八幡はるみ 工芸・東洋館を祝う」（大原美術館工芸館・東洋館／岡山）、'16年「革新の工芸」（東京国立近代美術館工芸館）、'17年「第21回染・清流展」（第2回展より連続出品、染・清流館／京都）など多数。

受賞：'97年京都市芸術新人賞など。

代表作：「DREAMS」（'05年）、「Garden」（'08年）、「ときわ—Asian Botanical Garden—」（'15年）、「フィトセラピー」（'18年）など。

柏原 えつとむ（かしはら えつとむ） 現代美術 77歳

1941年神戸市生まれ。'65年多摩美術大学油絵科画卒業。'66年より各種公募展、個展などを中心に活動を始める。'69年の前川欣三・小泉博夫らとの実験展「Mr. X とは何か？」の後、'70年に個展「イメージと認識展」を発表。これは、さまざまな規範がラジカルに問い直されていた社会状況を背景に、従来の美術的コードを解体しながら、視覚と精神の新たな回路を模索するものであった。その中から生み出された「THIS IS A BOOK」「ROCK」などが後の「言葉を持つ絵画」シリーズにつながる。また、槇ひろしのペンネームで児童文学や絵本なども手がけている。京都精華大学名誉教授。

展覧会：'68年「現代美術の動向展」（京都国立近代美術館）、'70～'98年個展「<展>—柏原えつとむ」（京都書院ホール他）、'73～'75年個展「方法のモンロー展」（楡の木画廊／東京他）、'78～'81年個展「凶の像」（白樺画廊／東京他）、'84年「現代絵画の20年展」（群馬県立近代美術館）、'89年「ドローイングの現在展」（国立国際美術館／大阪）、'12年個展「<私>の解体へ 柏原えつとむの場合」（国立国際美術館／大阪）、'15年「Re : play 1972 / 2015 —『映像表現'72』展、再演」（東京国立近代美術館）、'18年「1968年激動の時代の芸術」（千葉市美術館）、'19年「百年の編み手たち・リニューアルオープン記念展」（東京都現代美術館）など多数。

受賞：'72年童話「カポンをはいたけんじ」により講談社児童文学新人賞など。

代表作：「Mr. X とは何か？」（'69年）、「THIS IS A BOOK」（'70年）、「方法のモンロー」（'73～'75年）など。

京都美術文化賞 受賞者（敬称略）

※は故人

- 第1回(1988年5月) ※秋野不矩(日本画) ※小牧源太郎(洋画) 坪井明日香(陶芸)
 第2回(1989年5月) ※麻田 浩(洋画) 小清水 漸(彫刻) ※伊砂利彦(染色)
 第3回(1990年5月) ※中野弘彦(日本画) ※三尾公三(洋画) ※藤平 伸(陶芸)
 第4回(1991年5月) 竹内浩一(日本画) 井田 彪(彫刻) 樂 吉左衛門(陶芸)
 第5回(1992年5月) ※吉原英雄(版画) ※野崎一良(彫刻) ※南 祥輝(漆芸)
 第6回(1993年5月) 中野嘉之(日本画) 内田晴之(彫刻) 面屋庄甫(人形)
 第7回(1994年5月) 黒崎 彰(版画) ※鈴木 治(陶芸) ※来野月乙(染色)
 第8回(1995年5月) ※下村良之介(日本画) 番浦有爾(彫刻) 深見陶冶(陶芸)
 第9回(1996年5月) ※岩倉 寿(日本画) 木村光佑(版画) 富樫 実(彫刻)
 第10回(1997年5月) ※下保 昭(日本画) 齋藤眞成(洋画) ※西嶋武司(染色)
 第11回(1998年5月) ※芝田 耕(洋画) ※山田 光(陶芸) 澁谷和子(染色)
 第12回(1999年5月) ※小嶋悠司(日本画) 林 康夫(陶芸) ※服部峻昇(漆芸)
 第13回(2000年5月) ※堂本元次(日本画) ※井上隆雄(写真) ※江里佐代子(截金)
 第14回(2001年5月) ※渡辺恂三(洋画) 木代喜司(彫刻) 福本繁樹(染色)
 第15回(2002年5月) ※岩本和夫(日本画) 小林陸一郎(彫刻) ※栗木達介(陶芸)
 第16回(2003年5月) ※森本 勇(洋画) 竹内三雄(彫刻) 河田孝郎(染色)
 第17回(2004年6月) 加藤明子(洋画) ※木田安彦(版画) 林 秀行(陶芸)
 第18回(2005年6月) 吉川 弘(日本画) 柳原睦夫(陶芸) 望月重延(漆芸)
 第19回(2006年6月) 西野陽一(日本画) 宮瀬富之(彫刻) 上野真知子(ファイバーアート)
 第20回(2007年6月) ※入江西一郎(日本画) 平岡靖弘(洋画) 井隼慶人(染色)
 第21回(2008年6月) 木村秀樹(版画) 秋山 陽(陶芸) 松本ヒデオ(陶芸)
 第22回(2009年6月) 三橋 遵(染色) 八木 明(陶芸) 甲斐扶佐義(写真)
 第23回(2010年6月) 西久松吉雄(日本画) 野村 仁(マルチメディアアート) 田島征彦(染色)
 第24回(2011年6月) 山本容子(版画) 小林尚美(ファイバーアート) 森村泰昌(現代美術)
 第25回(2012年5月) 川村悦子(洋画) 福本潮子(染色) 伊部京子(ファイバーアート)
 第26回(2013年5月) 麻田脩二(染色) 清水六兵衛(陶芸) 川瀬敏郎(花人)
 第27回(2014年5月) 畠中光享(日本画) 西野康造(彫刻) 生田丹代子(ガラス造形)
 第28回(2015年5月) 浅野 均(日本画) 今村 源(彫刻) 久保田繁雄(ファイバーアート)
 第29回(2016年5月) 森田りえ子(日本画) 松井利夫(陶芸) ヤノベケンジ(現代美術)
 第30回(2017年5月) 箱崎睦昌(日本画) 山部泰司(洋画) やなぎみわ(現代美術)
 第31回(2018年5月) 小名木陽一(織) 重松あゆみ(陶芸) 鈴鹿芳康(写真造形)
 第32回(2019年5月) 名和晃平(彫刻) 八幡はるみ(染) 柏原えつとむ(現代美術)

絵画 35名(日本画18名 洋画11名 版画6名)

彫刻 13名

工芸 35名(染織13名 陶芸16名 漆芸3名 截金1名 人形1名 ガラス造形1名)

その他 13名(写真3名 ファイバーアート4名 マルチメディアアート1名
 現代美術4名 花人1名)

計 96名